



日本防災士会 千葉北

第 28 号 2017 年 4 月 1 日発行

今号の内容	
防災講習会・訓練	
自主防災組織でもDIGができるようになるために	1
お年寄りの不自由さを自動が疑似体験	2
300人規模で体験訓練を実施 HUG	3
県内の公民館長が避難所運営を学ぶ	4
避難行動訓練教材「EVAG」体験講習会	4
北部支部会員さん 紙上インタビュー	
木勢 さくら さん	7
梅木 満 さん	8
交流の広場	
会員短信	5
北部支部の防災支援活動 (2016年12月～2017年2月)	6
新会員紹介	6
平成29年度定期総会開催のお知らせ	6
編集後記	8

**自主防災組織でも
DIGができるようになるために
野田市防災リーダー研修会**



熱心に演習に取り組む参加された皆さん

1月15日(日)野田市主催で同市役所において、野田市防災リーダー研修会が行われました。研修会には自主防災組織のリーダー約200名(内女性が4名)が参加して、北部支部とBCNが講師とファシリテーターを提供しました。

研修会はテーマを「地域住民組織の災害初動対応」とし災害時における地域の要支援者への対応を学びました。研修に参加したリーダーが地域に戻りファシリテーターとして訓練が行えるようになることを目標にしました。

講師による全体説明の後14のテーブルに地域の避難場所、消防署など防災拠点、要支援者の住居、火災の発生個所、道路被害個所、風向きなどの情報があらかじめ書き込まれた地図が配られました。そしてテーブルごとに用意された一枚の白地図にそれらの情報を書き写して演習用地図を完成させました。次に、要支援者一人ひとりの名前と状況が記載されたリストがテーブルに配られ、演習用地図の上で要支援者の住居と地域の状況を確認し救助優先順位を各人が判断しました。その後グループ討議を行いグループとして優先順位を決定しました。最後に各グループが優先順位と判断の根拠を発表し合い様々な見方、考え方があることを学びました。

今回の研修は演習用地図が半ば出来上がった状態からスタートし、要支援者の救助優先順位を判断することに重点を置きましたが、地域に戻ってファシリテーターとして訓練をリードするためには演習用地図を最初から作成する研修も受けることが必要です。また災害時に大きな力を発揮する女性リーダーの参加が増えることも望まれます。



お年寄りの不自由さを児童が疑似体験

船橋市立宮本小学校高齢者体験訓練



11月22日(火)船橋市立宮本小学校で6年生児童全員184名を対象に行われ、北部支部が協力しました。

訓練の狙いは高齢者疑似体験装置「もみじ箱」を身に着けて、目や体が不自由な高齢者の立場を疑似体験し、災害時などにおける高齢者への支援の大切さを学ぶことです。「もみじ箱」は、船橋市社会福祉協議会から以下の内容で提供されました。

- ゴーグル：曇りを入れて可視性を損なわせ、かつ視野を狭くし目の不自由さを体験
- おもり：手足の可動部に装着し筋力の衰えを体験
- 厚手のグローブ：手や指の感触などの衰えを体験



高齢者疑似体験装置「もみじ箱」(上)と装着の様子(下)

2人がペアとなり、1人が上の装置を着けて高齢者になり、もう1人はその介助者として一緒に避難場所に移動し、その後役割を交代して、全員が高齢者と介助者の立場を疑似体験できるようにしました。



「もみじ箱」を着けて階段を昇り降り

訓練は、高齢者が在宅中に大きな規模の地震が発生した、との想定で始まり、装置を着けた高齢者役が避難用リュックにペットボトル、食料、小銭を入れた財布などを詰め、介助者のサポートを受けながら長廊下と階段を往復して校内の想定避難所に移動しました。避難所に到着すると、黄色や青色など様々な色で模造紙に書かれた説明書きを読んでもらいました。こうした訓練を通して、高齢者役

は目と体の不自由さを、介助役はその大切さをそれぞれ学びました。

訓練を終えて、児童からは「お年寄りの不自由さがわかりびっくりした。家に帰ったら大変さについて祖母に聞いてみたい」「階段の昇り降りがこわかった」「目が悪いと黄色がすごく見え難いことがわかった」「逃げる時にはお年寄りがいたら助けたい」などの感想があいつぎ、体

験訓練の成果をうかがうことができました。



300 人規模で体験訓練を実施

エコ・ウォーク in 手賀 2016



校庭に集まって体験訓練

「エコ・ウォーク in 手賀 2016」は、11月26日(土)に柏市の手賀地域ふるさと協議会の主催により柏市立手賀中学校で開催されました。千葉県北部支部は、BCN、東京都支部、埼玉県支部と共に協力しました。手賀地域ふるさと協議会は、地域の各種団体間のコミュニケーションを図りながら、「安心・希望・支え合い」のまちづくりを推進している組織です。毎年「安心・

希望・支え合い」につながるテーマを決めたイベントを開催しており、今年のイベントは「防災体験」がテーマになりました。

当日は総合学習の時間を使い、地域内の柏市立手賀中学校、手賀西小学校、手賀東小学校の全生徒、児童合計 300 名を中心に体験訓練が行われました。保護者や地域の関係者も参加もできました。訓練開始前には地域消防団による消火模範演技の披露がありました。

訓練は体験を通して身体で感じてもらうことを狙ったカリキュラムが組まれました。その内容も以下のように小学校 1 年生から中学 3 年生までの年齢層に合わせる工夫がされました。

- 小学校低学年：新聞紙スリッパと紙コップ作製→防災紙芝居→防災ダック
- 小学校高学年：応急手当と搬送→ロープワーク→新聞スリッパと紙コップ作製
- 中学生：心肺蘇生→応急手当と搬送→ロープワーク
- 地震体験：小学校高学年全員と中学 3 年生全員

年齢別に校庭、集会所、体育館に別れて 30 分ローテーションで合計 2 時間を使って訓練が行われ、並行して起震車による東日本大地震の疑似体験訓練が実施されました。訓練を終えての全体集会では、北部支部の有志からロープワーク練習用キットが中学生と小学校高学年全員に寄贈されました。

後日、手賀中学校の生徒代表から真摯なお礼状が届き、「今回の訓練前ならば地震が起きても何もできなかったと思うが、訓練を受けた今は自信をもって行動ができると思う。この体験を沢山のの人に伝えたい。まずは災害時に一番危険があると思われる祖父母に伝えたい」との感想と決意が述べられていました。

対象人数が多く訓練内容も多岐にわたり、広い会場での移動・整列に時間を要するなど、これまでに経験しなかった難しい条件がありましたが、参加スタッフ 26 名のチームワークと協力により主催者と参加者の要望に応えることができました。



県内の公民館長が避難所運営を学ぶ

千葉県公民館連絡協議会館長部会研修会

2月3日(金)千葉市生涯学習センターで千葉県公民館連絡協議会の主催で県内に270ある公民館から館長約50名が参加して行われ、北部支部が講師とスタッフを提供しました。

研修は「公民館における避難所運営について学ぶ」とのテーマで講演を中心に行われ、災害発生直後から避難施設に変わる公民館の災害時運営ノウハウについて学びました。主催者に伺ったところ、「今回の研修を単に理論の学習だけではなくより実践的で実質的なものにしたいと考え、ホームページなどで講演依頼先を探していたところ、北部支部のホームページを見つけた。そこに掲載された多くの写真で、実践的な活動を行っていることを知って、今回の研修を依頼した」そうです。北部支部の日頃の地道な活動がホームページを通して共感を得た結果と言えます。

講演は「災害発生直後から館長は建物の損傷程度を迅速に把握し、公民館を避難所として使用するかどうかの速やかな判断を迫られる」「遺体安置所として使われる可能性もある」など緊張感を喚起する内容から始まりました。続いて、地域防災リーダーとしての必要な心構え、日頃からシミュレーションをして備えておくべきことなどを映像を交えて具体的な話をしました。途中、新聞スリッパと紙コップなどの作製研修を入れて気分転換を図りながら、約2時間の研修を終えました。

講演は「災害発生直後から館長は建物の損傷程度を迅速に把握し、公民館を避難所として使用するかどうかの速やかな判断を迫られる」「遺体安置所として使われる可能性もある」など緊張感を喚起する内容から始まりました。続いて、地域防災リーダーとしての必要な心構え、日頃からシミュレーションをして備えておくべきことなどを映像を交えて具体的な話をしました。途中、新聞スリッパと紙コップなどの作製研修を入れて気分転換を図りながら、約2時間の研修を終えました。

避難所生活で最初に必要になるトイレについて、東日本大震災で甚大な液状化被害を受けた浦安市に居住し、ペット用シートを応急トイレに活用して8日間の断水期間を乗り切った講師自身の体験が紹介され、大きな関心を集めました。ちなみに、参加者に公民館にマンホールトイレを準備しているかどうか聞きましたが、準備している公民館はありませんでした。

千葉県館長部会研修会は、公民館長が持ち回りで幹事役を務め、毎年様々なテーマを選んで開催されています。今回の「公民館における避難所運営について学ぶ」は初めてのテーマでしたが、終了後参加者からは「実践的な内容で大変良かった」と評価する声が多く寄せられました。「災害時に何が起きるのか?」「何をすればよいのか?」など具体的、実践的な内容の研修が評価されたものと思われます。災害時における公民館の重要性を考えるとこのような研修機会が今後継続して幅広く実施されることが望まれます。



熱心に耳を傾ける公民館長



避難行動訓練教材「EVAG」体験講習会

2月12日(日) 北部支部主催で江戸川区のタワーホール船堀で開催され、埼玉県支部と東京

都支部が協力しました。講習会は本教材を開発した国土防災技術(株)の講師により進められました。

「EVAG」とは **EVacuation Activity Game**(避難行動ゲーム)の略で「災害における共助力を高めるために必要な他者理解をいかにして進めるか?」という課題に応えるツールとして2015年に発売されました。このゲームでは様々な属性(性別、年齢、職業、身体的条件、家庭環境、性格、国籍他)の人たちを、ゲーム用のタウンマップに配置し、プレイヤー各自は異なる属性を持つ被災者になり切って、災害時の避難行動を自分で考えて行動します。それにより自分とは異なる属性を持つ人の立場への理解が深まることが期待されます。例えば健常者が目の不自由な人や寝たきりの人、日本語がわからない外国人になり切ることで災害時にそうした人たちに何が起きるのかをイメージできるようになり、災害時における助け合い(共助)の力につながるものと思われま

す。体験講習会では、大雨による洪水災害が迫っている、との状況設定で、災害情報入手、避難行動時期と手段の判断などを図上で演習しました。属性になり切った各プレイヤーは自分が助かるために様々な行動を起こします。その中で近隣他者への配慮や助け合いも自然に生まれました。一方で他者にかまわず自分だけ逃げる人もいました。

実際にプレイヤーとしてEVAGに参加して以下の感想を持ちました。

- ゲームのねらい(「属性の人になり切ること」)を参加者全員に十分理解させ納得させてゲームに入ることが大切。
- 防災士は、属性の人になり切れない傾向が強い。いつの間にか防災士の立場で知識と経験を駆使して行動してしまう。
- 参加者の防災に関する知識や経験のレベルに合わせて難易度が調整できることが望まれる。

「EVAG」のねらい・特徴を十分に把握すれば、自助と共助の力を高めるための有効なツールになると思われま

会 員 短 信

皆様のところへ既に情報が入っているかも知れませんが、よいお知らせです。

藤下様の吹上苑自主防災会が、平成28年度の防災まちづくり大賞を受賞されることになったとのことです。

防災の活動部隊「お助け隊」など日ごろの活動が立派でしたので、受賞は大変喜ばしいお知らせです。(筒井 義臣)

新会員の紹介

2016年12月以降、以下の方々が北部支部の会員になりました。

北部支部の会員数は現在71名です(2017年3月10日現在)。

熊澤 晃 さん (松戸市)	横張 政典さん (野田市)
久保俊一郎さん (松戸市)	小林喜世志さん
内田 祐至さん (船橋市)	山口みち子さん (市川市)
坂部 保之さん (香取市)	岡田 和也さん (船橋市)

北部支部の防災支援活動(2016年12月～2017年2月)

この期間、北部支部は以下の防災行事に参加・協力しました。ご協力ありがとうございました。

12月2日(金)	船橋市立宮本小学校防災学習(船橋市)
12月13日(火)	支えあい事業研修(東京都世田谷区)
12月20日(火)	船橋市立宮本小学校防災学習(船橋市)
12月26日(月)	NPO法人キッズパレット防災体験(袖ヶ浦市)
1月15日(日)	野田市リーダー研修会(野田市)
1月22日(日)	ライオンズマンション防災研修(野田市)
1月28日(土)	防災フェアふなばし(船橋市)
2月3日(金)	千葉県公民館連絡協議会館長部会研修会(千葉市)
2月8日(水)	支えあい事業研修(東京都世田谷区)
2月12日(日)	法典3丁目町会防災訓練(船橋市) 避難行動訓練教材「EVAG」体験講習会(東京都江戸川区)
2月19日(日)	北部支部スキルアップ研修会(船橋市)

平成29年度定期総会開催のお知らせ

北部支部の平成29年度定期総会が以下のとおり開催されます。

<日時>平成29年4月23日(日) 16時00分 (15時30分開場)

<場所>船橋市中央公民館 第6・7集会室(5階) (JR船橋駅より徒歩約8分)

<審議事項>

平成28年度の事業活動報告と会計報告

平成29年度の活動方針と予算

役員改選

総会議事と資料は、後日事務局から会員の皆様にお届けします。

また、定期総会終了後懇親会も予定しております。詳細は事務局からお知らせいたします。



♪ 北部支部会員さん 紙上インタビュー ♪

木勢 さくら(きせ さくら)さん



Q. ご出身地と自己紹介を簡単にお願いします。

A. 千葉市花見川区出身の大学生です。

Q. これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A. 大学では地理学を学びゼミでは気候地理学を扱った研究をしています。知識は深くありませんが台風や屋敷林などの研究を楽しんでいます。今年は卒業論文で梅雨前線の研究をする予定です。

Q. 特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A. 大学卒業時に測量士補と地域調査士の資格を貰える予定です。

Q. 防災士になられたきっかけはなんですか？

A. 元々地学に興味がありましたが防災を意識し始めたのは東日本大震災からだったと思います。その後大学に貼られたポスターで木原実さんが気象予報士ではなく防災士と紹介されていたのを見たことが防災士を知ったきっかけです。ホームページで活動を知り、自分も参加したいと思いすぐに資格を取りました。

Q. 2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A. 当日は中学校の卒業式が終わりクラスメイトと集まって食事をしていました。海近くでしたので、液状化現象で道路から水が滲み出していたのが印象的でした。泣いている友人もおり、祖父母と従姉弟が福島と宮城に住んでいるので大変心配だった記憶があります。また家が倒壊しているのではないかという不安があり帰るのが怖くて友達の家に行ったら母に怒られました。

Q. 今、はまっている事、熱中している事、趣味などがありましたら是非教えてください！

A. 散歩をするのが趣味です。山手線内回りや秋葉原から八王子まで歩いたりします。時間があれば泊りで箱根駅伝のルートを歩いてみると面白いかもしれません。(歩道があるかどうかは問題ですが…) 旅行も好きなのでお勧めの穴場スポット等があれば是非教えてください。

Q. 北部支部の活動に期待する事、取り組んでみたい事、ご意見などがありましたらお聞かせください。

A. 入会したばかりですので1つ1つの活動が勉強になり色々考える良い機会になっています。小・中学校での活動が1番興味深いです。私の出身校では防災訓練が活発ではなかったので「校庭に逃げて終わり」ではない防災訓練を取り入れる学校がもっと増えれば良いと思っています。

Q. 将来の夢をお聞かせ下さい。

A. 就職活動が希望通りにゆき行政で防災を担当するのが夢です。仕事をしながら北部支部で勉強し活動を続けていきたいです。将来的には地元の自主防災組織を活発化させられるように頑張りたいです。

♪ 北部支部会員さん 紙上インタビュー ♪

梅木 満(うめき みつる)さん



- Q. ご出身地と自己紹介を簡単にお願いします。
- A. 岩手県・陸前高田市出身です。
- Q. これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。
- A. 石油会社・電気設備の保全・設計・営業等などを経験しました。
- Q. 特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。
- A. 電気管理・消防設備士等です。
- Q. 防災士になられたきっかけはなんですか？
- A. 会社を定年後は防災に関するボランティア活動に取り組む希望を持っていました。定年になり3ヶ月後に東日本大地震が起これその後自治会役員に選ばれました。当時の団地自治会が東日本大地震に際して何もできなかった事が反省点となり、改善すべき引継ぎ事項として前任者から私にバトンタッチされたことがきっかけです。
- Q. 地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？
- A. 住んでいる団地で防災プロジェクトを立ち上げ活動中です。現在6年が経過しました。
- Q. 身の周りの防災について特にどんな点に留意されていますか？
- A. 防災インフラの整備(水・トイレ・電気・連絡手段・共助のツールなど)です。
- Q. 2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？
- A. 実家を被災者(いとこ)に提供しました。
- Q. 今、はまっている事、熱中している事、趣味などがありましたら是非教えてください！
- A. 「きょうの健康」ETV(NHK 教育)夜8:30～8:45(月～木)を見て勉強中です。
- Q. 北部支部の活動に期待する事、取り組んでみたい事、ご意見などがありましたらお聞かせください。
- A. これからの自治会防災リーダーを対象とした育成プログラムの開発が大事と思います。
- Q. 将来の夢をお聞かせ下さい。
- A. . . . ?

編集後記

今月号も北部支部の多角的な活動の一端を紹介しています。ホームページが昨年開設されて支部活動の発信力が増し、北部支部への各種支援依頼が増加しています。より多くの会員の皆様の参加が望まれています。活動に参加することで防災士としてのスキルは確実に向上し、会員同士が知り合える良い機会ともなります。

今号から「会員短信」を始めました。藤下会員が所属する吹上苑自主防災会の活動成果を紹介しています。会員の皆様の地域での活動の様子などをお気軽に「短信」としてお寄せ下さい。

広報担当： 黒田哲司 藤下 進 茂木 宏 平山優子 岩下裕二

事務局の連絡先： 飯岡孝(taka.iio@gmail.com)

広報担当の連絡先： koho.chibakita.bosaisi@gmail.com